

2026年度 関西学院大学 海外客員教員(招聘A) 成果報告書

書式 1

(適宜行追加可)

受入担当 教員	所属・職 氏名	国際学部・教授 難波 彩子
海外客員 教員	所属・職 氏名	Professor, School of Critical Studies, The University of Glasgow Jennifer Smith
招聘目的	1. 授業担当及び研究 2. 共同研究 3. 特別枠 (いずれかに○)	
招聘期間	2026年 6月 9日 ~ 2026年 7月 7日	
成果報告 以下の内容を日本語で記載して下さい。	2. 共同研究 (1) 共同研究の内容 Smith教授が進めている Citizen Science の取り組みである <i>Speak for Yersel</i> プロジェクトについて、共同研究の具体的な可能性を検討した。当該プロジェクトは、市民がオンライン上でスコットランド語 (Scots) に関する質問に回答し、そのデータを分析することで研究成果を社会に共有・還元するCitizen Science 型の取り組みである。 この取り組みを日本で展開する可能性を検討するため、Smith教授と複数回にわたり協議を行った。また、6月27日には関西学院大学東京丸の内キャンパスにおいて、Smith教授、他大学および研究機関に所属する社会言語学者・方言研究者を交え、この取り組みの日本での展開に関する会議を実施した。さらに、研究の国際化を推進する一環として、同日に Smith教授による講演会 “Crowdsourcing Dialect in the 21st Century” を開催し、日本の研究者に <i>Speak for Yersel</i> プロジェクトの概要と意義を共有した。 (2) 共同研究の成果 Smith教授との協議を通じて、The University of GlasgowのIT担当者から技術的支援を得られる可能性が確認され、Smith教授にも継続的な協力を依頼した。また、6月27日の会合では、他大学の研究者2名および国立国語研究所の研究者2名とともに、関西学院大学においてパイロット研究を実施する方向で共同研究を進めることに合意した。今後の展開についても、関係者間で継続的に連絡を取りながら検討を進めることを確認した。 会合後には、研究の国際化を推進するため、Smith教授による講演会を実施した。台風の影響により対面参加者は10名に限られたものの、オンラインでは20名の参加があり、講演後には活発な質疑応答が行われた。 今回の共同研究を通じて、<i>Speak for Yersel</i>, <i>Kwansei Gakuin</i> と仮称する関西方言に関するパイロット研究の実施に向けた方向性が具体化したことは、本共同研究の大きな成果である。	

受入担当教員が成果報告欄を記入される場合は本書式をお使いください。

* 本報告書は本学ウェブサイト等で公開されます